

---

# 大切な物は悪魔

草薙静那

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

大切な物は悪魔

### 【Nコード】

N13400

### 【作者名】

草薙静那

### 【あらすじ】

弱い存在の妖魔と守護する魔族

## 無力な妖魔

く行つたのか……。

私が美しければすべてが上手

今回の契約も破棄される事も

無かつたのか……。

私達は力の弱い妖魔。

力のある妖魔に今まで守られてきた。

その妖魔も代が変わり契約の更新は無いと言ひ捨てられた。

「お願いします。私達は貴方様の守護が無いと長くは生きられませ  
ん」

「私の知つた事では無いと思うが」

この度の当主は女遊びが激しいと聞いていて悪い予感はしていた。  
「婚姻関係で無くても構いません。お願いします」 頭を何度も下  
げるが主はこちらを見ようとしめない。

「自分の身は自分で守れ、それにお前は私の好みではない」

「では、他の者をこちらに遣わしますので」

「見て分らんか？女には困つていない。それに五月蠅い女は必要  
ない」

「申し訳ありません」

「何だ。今度は泣き落としでもするのか？」

うつむき加減に下を見ているとこちらを見たのか詰られた。

「そうだなこの魔界から出れば良いのだよ。手を貸してやろう」

「やめてください。そんな事……」

「下界ではお前のような妖魔は長くはないだろうな……」

彼は嘲りの表情を向けると手を一振りした。

すると足元が引きずられるように引つ張られる。

「い・イヤ……」

「諦めるお前の未来は決まったんだよ。じゃあな」  
その言葉を最後に空間の波に投げ出された。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1340o/>

---

大切な物は悪魔

2010年10月14日15時29分発行